



スイス アルプシュタイン



ミッション・宣教の声 主幹
黒田 禎一郎

信仰は神に向かう姿勢です

信仰は、望んでいることを保証し、
目に見えないものを確信させるものです。
ヘブル11:1

最近、私は姿勢について意識するようになりました。姿勢が悪ければ、身体のバランスは崩れてきます。正しくない姿勢とは、体がどちらかに傾いているということです。そして歪みが生じます。その点、私たちの体は正直です。そこで姿勢を矯正する必要があります。エクササイズを通して姿勢を正し、脊髄を矯正することは大切なことです。それによって体を正しい姿勢に戻し、健康体になります。

同じように、神に向かうキリスト者の姿勢も大切です。私たちは日々、どんな姿勢で歩んでいるでしょうか。自分の姿勢は、果たして歪みはないでしょうか。鏡の前に立ち観察する必要があります。宗教改革者マルチン・ルターは、「聖書は心の鏡である。」と言いました。自分の信仰姿勢を見るポイントとして、次の3点を覚えさせます。

まず第一に「信仰」によって歩む姿勢です。ヘブル人への手紙11章には「信仰によって」というフレーズがなんと21回も登場します。それは信仰の先人たちの姿勢でした。「信仰によって」とは、みことばをそのまま受け入れることです。旧・新約聖書全体の歴史を、「信仰によって」という観点で信じるこ

とです。また自分の人生を「信仰によって」観察する人は、正しい姿勢を保持し健康体の持主です。「昔の人たちは、この信仰によって称賛されました。」(ヘブル11:2)と記されています。

第二に「信仰」はみことばを基準とする姿勢です。「十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。」(1コリント1:18)また詩篇119篇作者は「私はあなたのみことばを心に蓄えます。あなたの前に罪ある者とならないために。」(119:11)と歌いました。光に向かい姿勢を正すならば、人生は明るく照らされます。光が物体の姿を照らすように、みことばは私たちの姿を照らしてくれます。

第三に「信仰」は主イエスにとどまる姿勢です。ぶどうの木と枝の関係のように、枝は木につながりさえすれば「実」が結ばれます。神にとどまる人の姿勢は、「その人は流れのほとりに植えられた木。時が来ると実を結びその葉は枯れず そのなすことはすべて栄える。」(詩篇1:3)です。

信仰は神に向かう姿勢です。自分の信仰の姿勢を観察し、靈的健康体を保持していこうではありませんか。

コロナ禍の海外邦人宣教17

オセアニア在住邦人宣教

クライストチャーチ日本人キリスト教会 牧師
渋谷 憲一

第2回「クライストチャーチJCF において」

皆さん、こんにちは。先月に続きまして、ニュージーランド・クライストチャーチの渋谷です。今回は私自身が牧師として仕えさせていただいている「クライストチャーチJCF」についてお分かちさせていただきます。

正直なところ、一昨年から起こった「コロナ・パンデミック」には非常にショックを受けました。それまでは日本から短期でクライストチャーチを訪れる若者たちに宣教のフォーカスが向いていたため、それらのターゲットを失って、ある意味「目標を失ってしまった」ように感じていたからです。毎週行っていた『英会話クラス』も休止を余儀なくされ、「幼いお子さんを持つ若い日本人のお母さんたちの集い」も集まれなくなりました。

ただ、長年の経験から(特に2011年に起こった『カンタベリー大震災』を通して)「こんな時こそ、淡々と日々祈り、いつものように主を礼拝して行けば良い」ということを学んでいたもので、5~6年前から始めた『礼拝前祈禱会』において「主よ、私たちの思いを超えた、あなたの新しいみわざを成し遂げてください!」と祈っています。

そんな中、クライストチャーチ在住者たちの中から、一昨年は3名、昨年は4名の方々が洗礼へと導かれました。ハレルヤ! また最近も在住者の方が新しく礼拝に出席されるようになり「神様は確かに私たちの祈りを聞いてくださっている」と感じています。

また、以前からアイデアとして持っていたものの、なかなか実現に至らなかった「独自のYouTubeチャンネルを作って、礼拝などの動画をアップロードしたり、礼拝のライブ配信を行う」という活動を、とうとうこの『コロナ禍』をきっかけとして開始に踏み切ることになりました。十分な機材や人材がないことを理由に二の足を踏んでいましたが、もはやそんなことは言っていられなくなったわけです。これで、もちろん外出できない状況でも、



カンファランス

自宅で画像を通して礼拝できるようになったわけですが、思いがけない副産物もありました。それは、これらの動画の故に、クライストチャーチで信仰をもって日本に帰国して行った人々も、(日本でも教会に行きたくても行けない方々が多いこともあり)懐かしい礼拝の様子を生で観られるようになったのです。これも「私たちの思いを超えた主なる神様のみわざ」と言えるのではないのでしょうか?

小グループでの活動

それだけではありません。実はずっと以前から「もっと小グループでの集いが増えて欲しい」と思っていたのですが、教会主催の祈り会やバイブルスタディに集うことはあっても、「家庭を解放し、自分たちで誘い合って集まる」ということがなかなか定着しませんでした。ところが、現在のニュージーランド政府の『コロナ対策』の一環で「屋内ではどこでも25人までなら集まっても良い」という制限の中、家庭において互いにメンバーを招いて8~10人くらいのグループで一緒に画像を観ながら礼拝する、という形態が生まれてきました。これも嬉しい変化です。まったく神様のなさることは、私たちが立

てる計画とは違う形で成就しますよね!

最後にお伝えしたいのは、今年に入ってから「3年ぶりの『一時帰国』を目指して準備しておられる方々が多い」ということです。通常多くの(NZ人男性に嫁いだ)ご婦人たちが日本の家族を訪問すべく、年末年始の長期休暇を利用して一時帰国するのですが、ここ数年『コロナ禍』の影響でそれが難しくなり、皆一時帰国を控えていました。それが3年目になって「しびれを切らした(?)」感もありますが、今年一時帰国する方(ある方はいつもよりも長期間)が多いようです。そしてそれぞれが「この先状況がどんな風になるかわからないから、今回の訪問で何としても家族をキリストに導きたい!」という固い決意を口にしています。

ということで、ぜひ皆さんに覚えて祈っていただきたいことは、下記の通りです。

1. 引き続き、神様が導いてくださる道に従い、臆することなく忠実に歩み、神様のみわざを見せていただくことができるように。
2. これまで「宣教のターゲット」であった『日本からの短期訪問者たち』が再びクライストチャーチにやってくるができるように。
3. しばらくぶりに日本へと「一時帰国」される方々の旅の行程が守られ、まだ主イエスを知らない家族や友人たちに、大胆かつ柔和に福音を伝えることができるように。

読者の皆様の日々の歩みの上にも、神様の導きと助けがありますよう、お祈りしています。(つづく)



兄弟姉妹の集合写真



聖書の集い・連続メッセージ

「讚美歌詩・聖歌詩の背景から学ぶ信仰」

第1巻~第9巻 刊行

多くの人たちに親しまれている讚美歌詩・聖歌詩の背景にある作詞者の信仰に焦点をあてる励ましメッセージ集です。

中綴じB6サイズ ¥500 (税別)

ご注文は「ミッション・宣教の声」事務局まで。



その時、
わがたましいは歌う
主幹 黒田 禎一郎

海外伝道シリーズ 旧東ヨーロッパの 教会と信者は今

168

ウクライナ特集 特別編
黒田 禎一郎

それから、イエスは彼らに言われた。「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、(ルカ 21:10)

「ロシアは旧ソ連時代に逆戻りした!」と、かつて欧州の悲劇を経験した聖徒たちは、口を揃えて語っています。約30年前、欧州の冷戦構造が終焉し多数の人々は平和が来ると期待しました。しかし現実には再び恐ろしい戦争が始まり、多数の死傷者と難民が続出し出口が見えない戦場となりました。大国ロシアが小国ウクライナに侵攻した背景には複雑な歴史があり、目を背けるような悲惨なニュースで心が痛みます。そこでウクライナはどんな国か、キリスト者の視点からクリスチャンと教会について考えてみます。

豊かなウクライナ

まずウクライナは地理的にロシア西側に位置し、欧州への玄関口ともいべき地です。非常に肥沃な土地に恵まれ農業生産が豊かです。私の印象では緑豊かな国で、1991年旧ソ連邦崩壊後に独立しました。国土は約60万平方kmで日本の約1.6倍、ロシア、カザフスタンに次ぐ大国です。ロシアが一方的に「編入」宣言した南部クリミアを除く人口は、約4千159万人(2021年)です。公用語はウクライナ語、人口の約20%がロシア系で東部や南部に多く住んでいます。

兄弟国家

国旗の青色と黄色は、空と小麦畑を象徴し「黒土」と呼ばれる肥沃な農地が広がり「欧州の穀物倉」と呼ばれました。小麦やとうもろこしは世界有数の生産量を誇り、国外へ輸出していました。首都キーウにはかつて「キーウ・ルーシ(公国)」という強力な国家があり、ロシアのルーツともいわれます。ロシアは帝政、ソ連時代を通じてウクライナを支配しました。同じスラブ



ウクライナ難民

系民族でロシアを兄、ウクライナを弟とする「兄弟国家」と呼び、歴史的、文化的結びつきには深いものがあります。ソ連から独立後、ウクライナは「兄」ロシアの保護を受けるか、あるいは欧米諸国と新たな関係を結ぶかで揺れ動いていました。2004年、対ロシア関係を重視する政権を民主主義勢力が倒す「オレンジ革命」が起こり、2014年2月には親ロシア派のヤヌコビッチ政権が親米欧派のデモによって崩壊しました。

このような歴史的背景から、ロシアはウクライナを自国の「勢力圏」とみなし、親米欧に進もうとする事態に危機感を強め、ついに強行手段に出たのが実情です。2014年3月、ロシアはクリミア半島に軍を派遣して制圧し、ロシアへの「編入」を宣言しました。



爆撃された建物

信仰の篤いウクライナ人

ウクライナの宗教界は非常に複雑で、実態を把握することは容易ではありませんが、統計上に現れている数字は次です。国民の大多数はウクライナ東方正教会に属し人口比の約72%を占め、東方典礼カトリック教会が14.1%、カトリック教会は15.8%、プロテスタントは2.4%です。プロテスタントで最大教会は、ペンテコステ派で約25万人の信者がいます。次はバプテスト教会で、教会は約2千500箇所あり信者数は約15万人。そしてメソジスト派、メノナイト派、ブラザレン等の信者がいます。ですから宗教心の篤い国民と言われます。福音派教会は、これまでも「宣教の声」を

通して伝えてきたように、福音宣教と社会的弱者(孤児、未亡人、身体障害者)へのアプローチを積極的にしてきました。この2本柱の働きは今回の事態で、さらに重要性を増しました。西側の聖徒と教会の祈りと支援が至急必要です。

プロテスタント信者の多くは、旧ソ連時代に信仰の迫害を受けました。中でもドイツ系やユダヤ系の人たちは、極寒シベリアへ強制連行され強制労働を強いられた苦い経験があります。そこで数え切れないほど多数の人々が命を失い、彼らの歴史は悲劇であり想像を絶します。その彼らがソ連崩壊後にウクライナに戻り、キリストの福音を熱心に語り各地に教会を建ててきました。今日では第二世代に入り、彼らの敬虔な信仰が受け継がれています。彼らは経済的貧困の中でも教育機関(神学校、聖書学校)を開設し、積極的に伝道活動を行ってきました。国自体が長い共産主義社会から脱皮し、政治と経済を復興させようと努めていた矢先に、今回のロシア軍侵攻が起こりました。私には宣教の情熱に燃えた聖徒たちの顔が非常に印象的です。

今回のロシア軍侵攻によって、約400万人以上の女性と子どもたちが国外へ難民として出ています(4月1日現在)。クリスチャン男性は国内に残り、命をかけて戦っています。ウクライナの兄弟姉妹の必要は想像を超えています。そこでまず、ウクライナとロシアの両国を覚えて祈りましょう。次はその祈禱課題です。



ウクライナ軍戦車

祈禱課題

1. 戦火が速やかに終息するように
2. 教会の指導者(牧師、長老、執事)に知恵が与えられるように
3. 教会と弱者(孤児、未亡人、身体障害者)が守られますように
4. 人道的支援がウクライナに届きますように

※「ウクライナ支援献金」受付中

どんなたましいも諦めない愛

一人のたましいが悔い改め、イエス・キリストを人生に迎えることは、天でも地でも歓喜が湧き上がります。誰かの救いのために私たちは信仰を持って祈り続けますが、もう一方では、ある人の救いは不可能だと決めつけ、祈りさえせずに諦めてはいないでしょうか。イエス様が宣教中に救われた人々の中で、悪霊に取りつかれ、誰にも助けてもらえず、放置され続けたあわれな人がいました。そのゲラサ人の男性と同じように、自らを傷つけ破壊的な生き方しかできずに、もがいていた一人の男性の再生ストーリーがここにあります。

トラブルメーカー

チョウ・ドンヒョクが生まれた1970年代の北朝鮮は、金正日とその父、金日成主席の後継者として頭角を表した頃でした。彼の父は金日成統治下で、党と首領に忠誠を尽くし、地位を高めました。ところが、金正日が次期最高指導者としての地位を確立させると、金正日の取巻きたちから父はその地位も職も全て奪われ、一家は田舎の鉱山へと送られました。苦しい生活を強いられ、酒に溺れた父でしたが、子どもたちを厳しく育て、教育を受けさせ、ドンヒョクは工業大学まで進むことができました。ドンヒョクは幼い頃から負けず嫌いの性格で、何かと反抗心を露わにし、やがて党組織でも、誰も彼を統制することはできないほどのトラブルメーカーとなりました。

ドンヒョク青年期の1990年代は、金日成が崩御し北朝鮮国内は飢餓地帯となった頃でした。その頃、彼は頻りに中国に出入りするようになりました。中国で韓流の影響を受けた彼は、韓国のあらゆる文物を北朝鮮に持ち込み、それらを盛んに広めました。そんなドンヒョクが中国で、一人の韓国系宣教師に出会いました。その宣教師たちが宣伝する神を信じた彼は、信仰の道に入りました。ところが、彼らは異端者たちであり、ドンヒョクは彼らからの裏切りに失望し、神から目を逸らす道を選んでいきました。やがて彼は様々な違法行為を行い中国公安に捕まり、北朝鮮でも逮捕され、長い服役生活を余儀なくされました。

跳ね馬

懲役を終えたドンヒョクが40代となった2011年に、金王朝は3代世襲を続け、金正恩が北朝鮮に君臨しました。もはや、この国に何の希望も見出せないと感じた彼は、親兄弟を残し、ひとり韓国へと渡りました。国境警備隊の追撃の中、命からがら逃げ、長い旅路の末、大韓民国に到着しました。彼はこの国に順応することよりも、故郷の人々を独裁国家から脱出させようと躍起になりました。恐れ知らずのドンヒョクは、再び中国や北朝鮮に潜入し、さまざま多くの脱北者たちを韓国に引き渡しました。彼自ら豆満江に入り、川を渡ろうとする人々の手をかり助けました。

韓国での彼は事業に専念し、その儲けのほとんどを北朝鮮の家族や友人たちに送金し、韓国に定住するある脱北母子家庭を経済的に支援し続けました。また、彼は北朝鮮での反人道的行為の数々を国際社会に広く知らせました。2017年に文在寅政権が発足し、金政権と同調する韓国政権にも嫌気がさしたドンヒョクは、これまでの生業を全て手放しました。ソウルの中心街にある光化門政府庁舎前でテントを張り、ホームレス生活をしながら闘争に明け暮れるようになりました。彼は捨て身の覚悟で、10日以上に及ぶハンストや自らの体にガソリンをかけて火を放とうとし、必死で韓国政権に異議を訴えました。ドンヒョクのこのような激しさの背後にはいつも、故郷の人々へのまっすぐな愛と正義を貫こうとする姿がありました。しかし、怒りに身をまかせ、破天荒に生き、まるで暴れ狂う跳ね馬のような自分を誰一人止める者はなく、もはや自分自身でさえも制御できませんでした。

とりなし続けて下さっている主

そんなドンヒョクを案じ、他の脱北者たちは以前から彼のために祈り続けていました。ドンヒョクはそれまで教会に出席したことがあっても、礼拝中の彼は決まって眠りに落ちていました。ある日、その脱北者たちのところにドンヒョクがやって来ました。その時、聖霊はその祈りの戦士たちに、今こそドンヒョクに福音を語れと示されました。彼らのこれまでのとりなしの祈りが満ちた時、ドンヒョクの心

の扉がついに開かれました。いつも怒りに翻弄され、激しく生きてきた自分とは対照的に、神の御子なる方はどんなに不条理な苦しみに遭わされようとも、最後まで黙って十字架の道まで従い通されました。それはただドンヒョクへの愛ゆえ、彼の全ての罪のためにその身を捧げ尽くして下さいました。そのことを教えられたドンヒョクは、涙と叫びを持って悔い改めました。それは彼をずっと見つめておられたイエス様の瞳に、彼がようやく自分の瞳を合わせた瞬間でした。

十字架の愛を抱いて生きるようになったドンヒョクの顔は穏やかで、その瞳は愛に輝き、多くの活動家たちが彼の変貌ぶりに驚きを隠せませんでした。ゲラサ人の男性はイエス様に出会い、変えられた喜びに溢れ、デカポリスの10都市にその恵みの奇跡を宣べ伝えていきました。チョウ・ドンヒョクもまた、同じ喜びを大韓民国や故郷北朝鮮だけでなく、地の果てまでも福音を宣べ伝えることを志す宣教師として生きています。神の御子なるイエス様にとって、救いが不可能なたましいは、この世に一人といません。イエス様は誰のことも諦めずに、今日も一人ひとりのために釘で打たれたその両手を広げ、御父なるお方に、私たち全人類のためにとりなし続けて下さっております。主イエス・キリストが決して一人の魂を諦めないのであれば、神のしもべである私たちが誰かの救いを諦め、祈りを止める理由がどこにあるのでしょうか。

神は、すべての人が救われて、真理を知ることができるのを望んでおられます。

(1テモテ2:4)

(名前は仮名です)(次号につづく)



軍備に進む北朝鮮

ウクライナ支援

●ヨーロッパの多くの教会とキリスト教諸団体は、2月27日のロシア軍のウクライナ侵攻後、直ぐに愛の行動を開始し住民の救助と支援、そして人道的支援にとりかかりました。その兄弟愛に立つ尊い働きを全て紹介することはできませんが、ここにその幾つかのドイツをはじめとする国々からの働きを紹介します。

●福音派の教会「フライブルク・シュタット・ミッション」は、キーウの子ども施設「父の家」の157人の子どもたちと30人の大人(スタッフ)を、バスで安全なドイツ・フライブルクまで搬送しました。それはロシア軍侵攻後3日のことで、その速やかな救援活動が評価されています。フライブルク・シュタット・ミッションは、長年この「父の家」の支援活動を行なっていました。



キーウから無事到着した157人の子どもたち(一部)

●フライジングのカトリック・東欧援助機関「レノヴァビス」は、3月2日の「灰の水曜日」を、「ウクライナとウクライナ国民のための祈りと断食の日」とし、参加を呼びかけ多く賛同者が協力しました。またコーントールの福音派宣教師団体「リヒティン・オステン」は、現地の宣教師団体とも協力し、ウクライナの人がこの困難な状況下で、真の救い主イエス・キリストに出会うことができるよう支援体制をとる働きを始めました。またモスバハにある「オペレーション・モビライゼーション」(OM)が現地ウクライナで働くスタッフのために祈りと支援を呼びかけています。OMスタッフはこの戦火の中、現地に留まる決心をしウクライナ人の支援活動を続けています。

●「デアコニー・災害支援団体」は、ただちに50万ユーロ(約6500万円)を提供しました。ギーセンにある宣教師支援団体「グローバル・エイド・ネットワーク」は、スタッフを現地に派遣し難民をウクライナの近隣諸国へ誘導する働きを開始しました。同じく「サマリタンズ・パース」はクリスマスの贈物「シューズ・ボックス」キャンペーンに参加した約3000の教会からの支援金と救援物資を現地に届けています。また難民支援に救助の手を差し伸べています。

●スイス人宣教師エファ・ザモエンコ・ニーダラー夫人は夫と3人の子どもとともに、ウクライナ東部のロヴァンスクに留まる決心をしました。彼らは「希望の舟」という恵まれない子どもたち30人を受け入れる施設を運営しています。



エファ・ザモエンコ・ニーダラー宣教師

この施設はドンバス国境に近く、2014年にも施設が破壊され被害を受けました。施設にはシェルター設備はないため、子どもたちを分散し保護しています。戦火が激しくなる中、どれだけ持つかは不明となっています。彼らの生活はすべて西側からの支援に立っていますが、現在その活動が停止させられています。食料品、医薬品、生活必需品が必要です。どうぞこのスイス人宣教師を覚えてお祈りください。

●ドイツキリスト教民主同盟(CDU)の政治家アレクサンダー・クラウス議員(46歳)は、自らウクライナ国境まで出向き救援物資と支援金を現地に届けました。またカール・エルンスト・ミュラー議員もポーランドとウクライナ国境まで行き、医薬品と生活必需品を届けました。国境を越えて流入する難民たちに支援の手を差し伸べました。彼らが語るには、ポーランド東部のガソリンスタンドと銀行には、救援物資を届ける車両と関係者で長蛇の列ができていたとのこと。クラウス議員は、「ポーランド人は皆協力し合い、ウクライナ難民を暖かく迎え助けている。」と語っています。



国境に立つアレクサンダー・クラウス議員

イラン

国際人権委員会(IGFM)とキリスト教出版社「イデア」は、3月の「囚われ人」としてイランのハジイー・ラヒミ兄弟(32歳)を挙げ、全世界のキリスト教会とクリスチャンに執り成しの祈りを要請しました。2020年8月1日、彼は地下の「家の教会」会員であることと、キリスト教シオニスト運動員である理由で逮捕されました。彼は国家の安全を脅かす危険人物とされ、1月9日に4年の実刑判決が下されました。彼は元イスラム教徒でイエス・キリストへの信仰に改宗し、地下にある「家の教会」(名称:イランの教会)に属しています。テヘラン政権はイスラム教徒から他宗教に改宗した人々に、一層厳しい取り締まりを行っています。どうぞ、ラヒミ兄弟の速やかな釈放をお祈りください。イラン人口約840万人の99%がイスラム教徒です。その中でクリスチャン数は約0.7%から0.9%であると言われる。どうぞ、お祈りをお願いします。

世界宣教

ヨーロッパ全体でクリスチャン数は減少傾向にありますが、逆にアフリカ・ケニアではキリスト教会とクリスチャン数は伸びています。それは特に福音派教会においてのことです。ドイツでは2060年には現在のクリスチャン数の半数になるという推測もあります。このような傾向は全欧州と福音派教会で、一様に言えることではありません。南欧、東欧では教会とクリスチャン数が伸びている国々もあります。とくに最近では難民流動によって、欧州はじめ世界の図式が大きく変化しつつあります。特にフランスの福音派教会の信者数は、全国民の約1.6%にもなっています。福音派10教会のうち8教会が、1970年に降に建てられました。そして現在、10日に1教会が誕生しています。

世界人口は現在約79億人、それが2050年には97億3千万人になると言われます。そのような中で欧州は現在5億6千800万人であるのが、2050年には4億9千600万に下降すると言われます。一方、アフリカは現在6億9千万人が12億8千万人になろうとしています。他に北米は7億人、ラテンアメリカは7億3千万人、オセアニアは約6億人と増加するであろうと推測されています。これは統計上の推測にすぎません。どうぞ、お祈りください。

ドイツ

ロシア軍がウクライナに侵攻して三日後2月27日、首都ベルリンには10万人以上の人々が集まり、戦争反対のデモ行進がありました。



ロシア軍のウクライナ侵攻反対デモ

主催はキリスト教会、労働組合、人権擁護団体などで構成された団体で、武器による戦争ではなく「平和」を訴えました。主催者側の参加予想人数は当初2万人でしたが、それを上回る人々が集まり平和を訴えました。デモ隊のスローガンは「戦争をやめろ！ウクライナと全ヨーロッパに平和を！」でした。反対デモ集会での演説者はドイツ国教会議長でしたが、国教会報道部のアネット・クア女史は「ウクライナで流された血は天にまで届いている」と述べ、ロシア軍侵攻にたいして厳しい言葉で非難しました。彼女は「国の実験を握る者が、誤った権力と兵士の権利を奪い他国へ侵攻するということは『犯罪者』である」と訴えました。そして「戦争を引き起こす指導者は人間性を失っている。」と述べました。またドイツ国会とも親交がある「ドイツ・アライアンス同盟」の役員ウーヴェ・ハイモヴィスキー氏は「平和への戦いはエネルギーを放出するものであるが、祈りは神の御手を動かす。」と述べました。それゆえ米国では世界大戦後「国家朝餐祈祷会」が開かれ、人間は国、国境等を超えて互いに結ばれるべきである」と祈られるようになった、と述べました。

スイス

VC(迫害されたクリスチャンと困っている人々のための支援団体)のスイス・ランチ代表ザカ・エルンスト氏は、このほど「ホログラム聖書」作成に成功したと発表しました。



ホログラム聖書

ホログラム聖書とは、服用するピルサイズの大きさで超ミニサイズです。これは技術的にはマイスターレベルの高さで、聖書のみことばが非常に精巧な特殊技術によって入っています。こ

の聖書はバッテリー・スイッチを入れると、聖句とその箇所が光って表示されます。バッテリー有効期間は5年です。用途先は信仰の迫害、拷問、死の危険が迫っている国々で、非常時に有効な聖書です。現在も世界各地でクリスチャンへの迫害が起こっている中、このピルサイズの聖書は画期的な助けとなることでしょう。これまでは「ミニ聖書」(縦約5cm、横約1.5cm)が最小サイズとして知られ、何十万冊ものミニ聖書が、シベリアの強制労働収容所や旧東欧の迫害下の聖徒たちに届けられ、励ましを与えてきました。用いられますようお祈りください。

イスラエル

近年、考古学の発展には著しい発見がありますが、聖書考古学も同じく進み、聖書の信ぴょう性がさらに証明されてき



エル・アライで発掘されたビザンチン時代の会堂の遺跡

ました。たとえば、ピリポ、アンデレ、ペテロの故郷の地ベツサイダです。イエス・キリストもベツサイダにおいて、多くの病人を癒されました。そのベツサイダはどこであるか、聖書考古学者は長年にわたり発掘作業を進めてきました。初期の頃のキリスト教社会で、ベツサイダは巡礼地の一箇所でした。そこには教会堂が建てられ巡礼者が訪ねていましたが、紀元749年の大地震によって教会堂は破壊しました。そしてガリラヤ湖の水位も移動し、さらにその後イスラム教の侵攻によってキリスト教会堂や関連施設は破壊されました。その結果、ベツサイダがどこにあるかは正確に特定できない状態が続いていました。

約5年前から、米国とイスラエルの聖書考古学者は、エル・アライ(地名)での遺跡発掘作業を進めてきました。そこで縦27m、横16mの会堂跡が見つかりました。おそらくこの地が、イエス時代のベツサイダと推定されると思われます。その背景には、紀元700年生まれ修道士ヴィルワヴァルドが、この地にあった教会と修道院を訪ね、宿泊した記録がドイツのバイエルン地方で発見されたからです。そして紀元778年、彼の死の直前にフーゲブルク修道士がヴィルワヴァルド修道士に書き送った記録も発見され、エル・アライこそかつてのベツサイダであることが立証されました。イスラエルでは、このようにまだ発掘、確認されていない聖書遺跡は数千もあると言われて

ミッション・宣教の声 *The Voice of Mission*

〒541-0041 大阪市中央区北浜 2-3-10 V I P 関西センター 5F
TEL06-6226-1334 FAX06-6226-1336
E-mail senkyo@vomj.jp http://vomj.jp/

発行人 黒田禎一郎
年間購読料 ¥2,500(送料込)

郵便振替口座 00940-3-301623
銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店(店番205)
普通口座 3623132「ミッション宣教の声」

The Voice of Mission
MUFG Bank, Ltd. Sakaihigashi Branch
Bank account No.3623132 SWIFT CODE : BOTKJPJT
Bank Address : 59-2 Mikunigaoka-Miyukidoori, Sakai-ku,
Sakai-shi, Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL:81-72-221-3041



編集後記



- いつも祈り覚えてくださり感謝します。「ウクライナ支援献金」の呼びかけに、応答くださった皆様にお礼を申し上げます。現地ははじめ難民となった方々は、非常に大きな必要を抱えていますので、続いて覚えてください。
- ロシア軍のウクライナへの戦闘は長引く気配です。一刻も速い終結を切願しますが、その後も非常な困難が続くことは疑いありません。私たちの祈りと支援も長期になります。お祈りください。
- 小冊子「その時、わがたましいは歌う」(9)イースター特集号は、好評発売中です。皆様の活用にお礼を申し上げます。感謝。